



「湊川隧道保存友の会」の 皆様へ

兵庫県神戸県民局県土整備部長 芝原 平

平素は本県の県土整備行政、特に新湊川における神戸県民局の取り組みに格別のご理解とご協力を頂き、本誌をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、湊川隧道の保存についての取り組みについて振り返ってみますと、平成12年2月に「会下山トンネル（湊川隧道）保存検討委員会」が設立されました。この委員会は、湊川隧道の隣にできた「新湊川トンネル」が新たに新湊川の流路になることにより、河川としての使命が終わった「湊川隧道」の活用について議論を行うために設立されました。湊川隧道は、兵庫県における近代土木遺産としての歴史的価値評価を事前に行った最初の事例といえます。

この委員会から「湊川隧道の構造物を保存・活用し、次世代に伝えることが十分可能であることから、湊川隧道は、兵庫県、神戸市の歴史・文化を語る遺産として、将来のまちづくり、さらには土木技術の継承に役立てるべきである」との提言を受け、神戸土木事務所では、湊川隧道を永く保存し、多くの方々に見学していただけるよう整備を行ってきました。

「歴史・文化を語る遺産として役立てる」という点において、湊川隧道保存友の会で一般公開事業が大きな成果を挙げていると確信しております。

また、「次世代に伝える」という点では、近隣小学校の「地域学習」の場としての活用が定着しつつあります。「まちづくり」という点では、兵庫区役所主催のウォークが該当するのではないのでしょうか。これは新たに兵庫区へ転入された市民への兵庫区の紹介として湊川隧道がコースの中に入っているものです。

さらに、この委員会から将来の活用についても「湊川隧道は、市街地という一般市民が訪れやすい場所に存在する地下空間であり、市民のための多目的スペースとしても様々な活用が期待できる」との意見をいただいております。この期待通り、湊川隧道保存友の会主催のミニコンサートや映画撮影等に活用されるなど、多目的スペースとしての役割も十分に果たしているといえます。

このように、近代土木遺産としての「湊川隧道」が多くの人に愛され、親しまれていることを見るとき、「湊川隧道保存友の会」の皆様への御努力の結果であるものと深く感謝している次第です。今後とも「友の会」の活発な活動に期待申し上げますと共に、会の発展と会員の皆様のますますの御健勝とご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

音を科学する —暮らしの中の騒音と音楽ホールの響き—

神戸大学大学院工学研究科 工学研究科長
教授 森本 政之



第1部：暮らしの中の騒音

騒音とは、騒がしくて不快と感じる音のことであり、それらには環境基準値が設定されております。

音の強さが基準値を超えるものは騒音と認識され、また、ある人にとって好ましい音であっても、他の人にとっては騒音と感じる事もあります。一般的に不協和音などは騒音に聞こえるが、具体的に何を騒音と感じるかは、個人の心理状態や感覚、生まれ育った環境によって異なるため、その判定は難しいものがあります。騒音被害者は精神的ストレスを受け、一方騒音加害者はその意識が薄いため、騒音に端を発するト

ラブルは発生しやすく、事件に発展するケースもあります。

騒音の及ぼす影響では睡眠妨害、話声伝達妨害、情緒安定妨害、生理機能への影響、聴力損失（ロックコンサートなどの騒音性難聴）、老人性難聴などがあり、騒音レベルの単位はデシベル(dB)で表します。航空騒音の場合は、デシベル(dB)を元に朝と夕方と深夜など時間帯などを考慮して計算された「WECPNL」という指数が用いられています。人の耳に直接聞き取ることでできない低周波域の音(低周波音)による騒音は、低周波騒音と呼んでおります。では、騒音をどの様にして防ぐか。一番簡単なのは発生源から離れることでありますが、では発生源とどれくらい距離をとる（距離減衰）と効果があるかと云う事になりますと、それは音源の種類によって効果が分かれるところです。

音質は点音源・線音源・面音源などで、一番効果が得られるのが点音源ですが、点音源は距離の二乗に逆比例しますので、距離が倍離れば6dB下がる。すなわち、発生源から2m離れていたなら4mで6dB下がり、そのまた6dB下げようとするれば8m離れなくてはなりません。30dB下げようとするれば64mも離れなくてはなりません。線音源は3dBしか下がりませんし、面音源は距離が離れても下がりません。それらの効果がなければ塀やついたてによる遮音、壁による遮音（透過損失）などが考えられますが、壁面吸音につきましてはほとんど効果がありません。またトラブルの多いマンションなどの床衝撃音の防止などにはフローリングや排水管などの間に緩衝材を入れる事などにより効果が得られると思われま

す。我々に身近な国道2号、43号や阪神高速などの道路交通騒音の防止対策には、低騒音舗装（排水性舗装）・遮音壁・アクティブ遮音壁と裏面吸音板などがあります。

第2部：音楽ホールの響き（デモ付き）

専門家以外の方が音楽ホールに行かれて気になさるのが残響についてであろうと思われま

す。音楽ホールには色んな形があり、色んな壁を設置してあります。残響感のものさしは残響時間で60dB(1/1,000,000)下がるまでの時間を云います。残響音（エコー、リバーブ）の効果を調べるのに無響室でのバイオリン演奏と1秒間の残響と2秒、4秒の残響での演奏を聴き比べて頂きます（デモ中）。どれがいいと云う正解はありません、個人個人の好みです。次にNHKのアナウンサーの話し声を同様に聞き比べて頂きます（デモ中）。残響があまりあると聞きづらい面もあり、これも好き好きです。好き好きではありますが最適残響時間というもの

が決められて居ります。部屋の容積と吸音力によって変化し、吸音する材料が多く観客が多いほど長い残響時間となります。音楽ホールは基本的に長方形と扇形のものが多く、残響音にはそれぞれ特徴的な響きがあり効果をあげています。それらの事を考慮し、音楽ホールの設計にはコンピュータでシミュレーションしたものや縮尺模型を使用して、反射壁からの反射波の重なり具合の影響を観察しながら音響的工夫をし、心地よい音楽に包まれる場を提供してあります。

市成 準一（事務局）

平成19年度の主な行事記録

！平成19年9月15日(土) 尺八ミニコンサート

場 所：湊川隧道内

内 容：「尺八ミニコンサート」、「隧道内見学」、
「パネル展示」、「レンガ販売」

参加者：70名

隧道一般公開時のイベントとして、9月15日に尺八ミニコンサートを開催しました。

隧道内でのイベントは、広さ、照明など設備上の制約があり、その内容は限られてきますが、誰にでも身近なイベントが、レンガ空間の音響効果を利用して音楽、音色を楽しむことです。そこで今回は、一つの音色をじっくり聴いてもらうため、尺八によるミニ演奏会を企画しました。

当日は、手作りの舞台（ビールケースを台にしてコンパネ2枚を置いた上に紺色の毛氈を敷き、周囲を布で囲う）を設置して、尺八奏者である新都市山流の佐々木恵山氏と村上邑山氏をお迎えしました。お二人にとっては隧道内という舞台はもちろん初めてのこと。リハーサルを済ませて本番に臨んでいただき、「いつでも何度でも」（木村弓 作曲 '千と千尋の神隠し' より）、「編曲民謡調」（水野利彦作曲）の2曲を2回公演していただきました。見学者の皆さんが興味を抱いた様子でミニコンサートを楽しんでおられるのを眺めながら、主催者側も隧道内での尺八の音色を初体験しました。お二人のご感想を紹介します。

佐々木氏：「平成7年1月の阪神・淡路大震災を、思い出し、力を合わせて復旧復興に頑張られた神戸の町々、そして明治34年に築造された湊川隧道の中で平和というものの大切さを改めて感じながら演奏させていただきました。」

村 上氏：「隧道の中で演奏といういい経験をさせていただきました。真夏でも涼しく、音響もすばらしく、音がよく響くので、自分が上手くなったような錯覚になり、気持ちよく演奏できました。」



左から、佐々木氏、村上氏

！平成19年11月17日(土) テノール・フォルテピアノミニコンサート

場 所：湊川隧道内

内 容：「テノール・フォルテピアノミニコンサート」、「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」

参加者：127名

今回のコンサートは、元土木技術者（神戸大学OB）がテノール歌手として活躍されておられると云う後久先生の記事が新聞に取り上げられたことから始まりました。

後久 義昭先生は神戸大学土木工学科を卒業された後、鉄道会社、建設コンサルタント役員、大学講師を務めるかわら、2003年より本格的にテノール歌手としてソロ活動を始められました。

テノールは下から2番目に低い声部で、バスより高くソプラノおよびアルトの下にきます。透明感のある明るい声の特徴の音色を楽しんでもらえたと思っております。

高田 泰治先生は大阪音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業後、同大学院ピアノ・ソロ研究室修了。チェンバロ、フォルテピアノ、ピアノの3つの鍵盤楽器を弾き分けるという日本初の公演を行なうなど、実力派若手として注目を集めておられます。今回は、フォルテピアノを演奏していただきました。フォルテピアノは現在のピアノの原型であり、モーツァルト、ベートーヴェンらが実際に使っていたピアノはこのタイプであると云われております。

当日は、1時30分と3時20分からの2回公演で、中世の幽玄な音と歌声が隧道内に厳かに流れました。参加者は2回公演で127名でした。公演歌曲は日本歌曲（千の風になって等5曲）、ドイツ歌曲（詩人の恋など5曲）でしたが、終了後もアンコールに応じていただきました。

紳士という敬称が当て嵌まります様な後久先生と、もの静かで寡黙な高田先生の息もピッタリで上品なミニコンサートでしたが、特筆すべきは、この日の参加者の方々が素晴らしくマナーがよく、参加者と公演者が一体となって場を盛り上げていただいたことです。公演終了後も暫くは静かに椅子にお座りになり余韻を楽しんでおられましたが、時間が経つにつれ後久先生を取り囲んでのミニ同窓会（神戸大）やハンサムな高田先生の周りには写真を撮りたいという女性の方々が取り囲んで居られました。



嬉しいに時、悲しいに時、何気なく口から出るのは馴染みの曲であり、短いフレーズの歌詞であったりします。音楽は私たちを慰め癒し、そして勇気付けてくれます。益してやこの度、湊川隧道で歌を唱い、曲を奏でただけましたことは、「湊川隧道保存友の会」として限らない喜びでした。



神戸県民局からのお知らせ

神戸県民局神戸土木事務所

新湊川の「魚巢」について

新湊川にも魚がたくさんいることをご存知でしょうか？地域のボランティア等と神戸土木事務所で試行錯誤した結果、コンクリート三面張りの新湊川にたくさんの魚が確認できるまでになりました。

平成16年頃、ほんの少しいた魚をもっと増やせないかと近隣の高校生から相談があり、神戸市立須磨水族園や河川愛護団体の協力を得て、魚が寄り付きやすい「魚巢」を設置することになりました。毎年、少しずつ改良を加え、現在では石井川と天王谷川の合流点から長田橋の間に6箇所の「魚巢」を設置しています。



新湊川トンネルより少し上流の新湊川へ降りる親水階段付近の「魚巢」では、平成19年の夏に湊川児童館が、この「魚巢」に集まる魚を観察するイベントを企画し、河川愛護団体、須磨水族園の協力を得て、「川あそび」を実施しました。この時に、子供たちが網で魚を捕った結果、オイカワ、カワムツ、ドジョウ、ドンコ、ヨシノボリ、テナガエビ、モクスガニ等（12種類）が捕れました。

また、定期的に須磨水族園が調査しており、ウナギがいることや、オイカワ等が産卵していることも確認できました。このように、都市部を流れる三面張りの河川にも自然があり、少しの工夫でよりよい環境が作り出すことができることがわかりました。新湊川を眺めているとき、子供たちが魚を捕っている姿を見かけると、「魚巢」を設置したことが本当によかったと思えます。

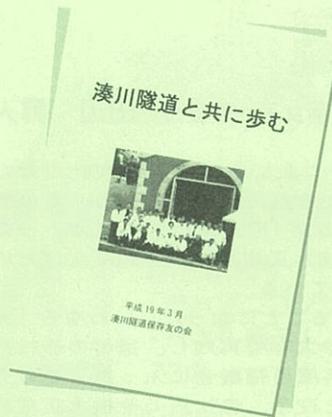
平成19年度の隧道の利活用について

湊川隧道の見学は、湊川隧道保存友の会が月に1度の一般公開を行っています。これ以外にも神戸土木事務所が行っている見学会等があります。地域の小学校の地域学習は、湊川の付け替えの経緯について学習されます。また、平成19年度が一番遠くからの見学者は台湾からの行政院経済建設委員会でした。さらに、映画撮影は2本ありました。まだ、放映されていませんが、日本だけでなく海外でも放映される予定です。このように湊川隧道の活用回数は、年々増えており、様々な使われ方をしているのがわかります。

来年度には、県の観光振興課が湊川隧道をもっと積極的にアピールしたいとの話もあり、今後、ますます知名度が上がっていくのではないかと期待しています。

利活用の目的	回数	人数
友の会の一般公開以外の見学会	10回	175人
小学生の地域学習	5回	247人
映画撮影・準備・下見	15回	317人
ロックバンドのビデオ撮影・準備	2回	16人

(平成19年度の隧道の利活用：平成20年2月18日現在)



活動記録誌『湊川隧道と共に歩む』を発行

湊川隧道保存友の会が発足して満5年を迎えるのを機会に、今までの活動記録を取りまとめることになり、神戸県民局の平成18年度神戸地域団体活動パワーアップ事業助成金により、A4版で243頁の『湊川隧道と共に歩む』を平成19年3月に発行しました。

本書は、湊川隧道保存友の会の活動概要を示す第Ⅰ部、神戸地域団体活動パワーアップ事業として実施した学習会やトンネル写真展・講演会等の内容を示す第Ⅱ部及び湊川隧道パンフレット、会報「天長地久」、講演録と講演レジュメ、資料類からなる附録で構成されています。

発行部数は200部で、主な配布先は本会の会員、神戸県民局、兵庫区役所、神戸市立図書館、地元自治会等です。

本書が今後の本会の活動に役立ち、本会の設立経緯や活動実績を将来に伝え、湊川隧道と同様の近代土木遺産の保存活用に生かされることを期待します。

地域の紹介 ③

湊川隧道を活かした地域の魅力発信活動 —湊川隧道保存友の会の皆様へ—

兵庫区まちづくり推進課 課長 丹本 陽

神戸市兵庫区は、平清盛の福原遷都、湊川の合戦、兵庫の港の繁栄をはじめとして、幾度も歴史の表舞台に登場した由緒あるまちであり、現在も区内には数多くの史跡や伝承が残されています。こうした地域の資源を結び、歴史と自然を活かした潤いのあるまちづくりを目指して、地域と区役所が一体となって「兵庫区歴史花回道構想」を策定し、各種の事業に取り組んでいます。また現在は、構想策定後7年が経過したことから、今後の新たな展開について様々な方々と検討を進めているところです。そうした中であって、烏原貯水池、兵庫運河、そして湊川隧道は、近代の神戸を支えた三大土木事業であり、いずれも兵庫区内にあるということから、これまで以上に地域の魅力として発信していくことが重要になるものと思われまます。

湊川隧道保存友の会の皆様は、兵庫区が誇る歴史遺産、湊川隧道を保存し、後世に残すための活動に止まらず、定期的な一般公開や講演会、隧道内でのコンサートの開催など、湊川隧道を活用した地域の魅力の発信活動に積極的に取り組まれています。隧道を見学された多くの方々が先人の偉業に感動し、魅了されていることでしょう。

このような皆様の活動は、多くの地域住民の方々を中心となって、神吉会長をはじめとする熱意ある研究者や専門家の方々を手を携えて進められているものであり、三大土木事業の保存や活用を図る取組みの中でも特徴的なものです。また、「兵庫区歴史花回道構想」を通じて進めている地域の魅力づくり活動の理想的なモデルとなるものです。

兵庫区北西部まちづくり協議会をはじめとした地域の皆さんと区役所との共催により、隧道内部の一般公開の機会を利用した歴史ウォークが昨年に続き、今年も3月に開催されます。区役所も湊川隧道保存友の会の皆様をはじめとした地域の特色を活かした魅力づくりの活動の輪をさらに広げ、地域づくりの一層の推進に寄与していきたいと思ひます。皆様とは、今後とも様々な形で連携を図り、その活動を積極的に紹介させていただきたいと考えています。皆様には、これからも歴史のまち兵庫区の魅力を発信していただければ、「天長地久」のご活躍をご期待申し上げます。



兵庫区北西部まちづくり協議会の歴史ウォークの打合せ



コースの下見の様子

湊川の戦いと会下山について

園田学園女子大学教授 田辺 真人

兵庫区を代表する桜の名所のひとつに会下山がある。会下山はJR兵庫駅から約1キロ北にあり標高約80mのなだらかな丘である。新湊川は会下山の下につくられた新湊川トンネルをぬけて兵庫区から長田区に流下する。この会下山が奈良時代には宇奈五岳（うなごだけ）と呼ばれていたことは、このシリーズの第1回目に紹介したが、一帯は14世紀前半に九州から京に上ろうとする足利尊氏と、それをくい止めようとして楠木正成が戦いを繰り広げた場所でもある。頂上付近には東郷平八郎の筆による「大楠公湊川陣之遺蹟」の碑が立っている。

元弘元年（1331）、鎌倉幕府打倒を謀って失敗した後醍醐天皇は、隠岐に配流されることになった。いわゆる「元弘の変」である。途中、天皇は兵庫を通過する。翌年に楠木正成や護良親王が河内や大和で再起し、播磨の赤松円心が挙兵すると、後醍醐天皇は隠岐を脱出して京に戻るうとし、旅の途中5月末に兵庫の福厳寺に入った。この寺に滞在中の6月初めに天皇は、関東の新田義貞から鎌倉を攻略したとの早馬の使者を迎え、赤松円心や楠木正成自身が兵を率いて天皇に合流した。その後、上洛した後醍醐天皇は建武と改元して親政を進める。しかし、やがて平安前期の貴族政権を理想とする後醍醐天皇の政治に満足しない武士たちに押された足利尊氏は、建武3年（1336）1月京都に入るものの戦いに敗れて九州に落ちていく。その数ヶ月後に尊氏は大きな勢力となって水陸両軍で九州からふたたび都をめざして攻めあがってくる。天皇方の新田義貞、楠木正成はこれを兵庫でくい止めようと陣を取る。「太平記」には、義貞は和田岬から兵庫の浜辺で足利方の水軍に備え、正成は湊川の西に陣を構えて須磨と鶴越方面からの陸軍に備えて戦ったと記されており、神戸では正成の陣は会下山にあったと伝えられてきた。

戦いは、足利方の水軍前方部隊が兵庫を通過して東進すると見せたため、義貞ら浜手の部隊は灘方面に移動するが、足利方水軍本隊が上陸したために楠木勢はこの水軍と西、北からの陸軍との敵の大軍の中に孤立する。このため七百余騎の楠木勢は激戦の末に七十三騎になり、正成らは湊川上流あたりで刺し違えて死んでいく。

会下山の山上からは、西は須磨、長田、東は三宮方面まで神戸の市街地が展望でき、大平記の描く摩耶山城や松岡城をも見晴らせる。須磨や鶴越方面から進軍する足利勢を迎え撃つ楠木勢にとって、会下山に勝る陣所はなかったであろうが、五十万ともされる足利軍にはとうてい太刀打ちできない戦いでもあった。

なお、江戸時代になって楠木正成を敬愛した水戸光圀は、元禄時代に家臣の佐々助三郎を派遣して正成の墓を整備させ墓石を建てさせている。その墓域一帯に明治初年に創建されたのが湊川神社で、境内には光圀筆の「嗚呼忠臣楠子之墓」と刻まれた墓石があり、その側には光圀の像もある。

湊川隧道について その7

湊川隧道の施工について

佐々木 良作（株建設技術研究所）

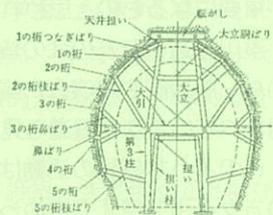
湊川隧道は、明治31年から明治34年の間に施工された。明治中頃までに逢坂山トンネル（明治12年）や琵琶湖疏水（明治23年）などが完成しており、トンネルの施工技術は確立していたと思われるが、湊川隧道の内空断面（約45㎡）は当時としては最大規模であり、相当の技術力を必要としたであろう。具体的な資料は残されていないが、施工の概要を紹介する。

湊川隧道の地山は、礫、砂、粘土などで構成される未固結地山であり、掘削は主に鶴嘴やノミによる手掘り作業で、十分な明かりのない中で危険も伴っていたと思われる。掘削は、底設（もしくは頂設）導坑式が用いられ、底部（もしくは頂部）に坑道を先進して開削した後、順次周囲を切り広げる。

掘削後、土砂の崩落を防ぎ、安全に掘削空間を保持するために木材の支保工を設けるが、安価で弾力のある松丸太が適していた。主要な丸太の直径は30cm前後で、各部材が直圧応力を受けられるように配置され、一つの部材に力が集中しないように工夫されている（右図事例を参照）。

一定の区間にわたって掘削と支保工の設置が完了すると、坑口から順次、河床部の敷石、側壁部・アーチ部のレンガによる覆工が始まる。敷石は、河床の中心に一つ置かれ両側に向かって各9個の敷石が湾曲しながら立ち上がり、レンガ積の土台となる石材（3個）が据えられる。この石材を基礎にして側壁部のレンガを積む。アーチ部のレンガを積むためにはセントル（架拱）と呼ばれる半円形の型枠支保工が必要になる。このセントルと掘削された地山との間は、レンガの巻厚（1/4）6枚巻；約70cm）と余掘り分の隙間があるだけで、作業員は、その狭い空間の中で目地モルタルを挟みながらレンガを並べていく。側壁部は作業中にレンガ積の仕上がり面を見ることが出来るが、アーチ部の様子はセントルを撤去して初めてわかるのであり、手直しがきかない。現在でも、アーチ部に見られる約1m毎の施工継ぎ目がその作業の進捗具合を表している。側壁部やアーチ部のレンガと地山との隙間には裏込として栗石と称される玉石が詰め込まれ、レンガ覆工と周辺地山の一体性が保つようになっている。

ところで、隧道の中間地点に設置された銘板（現在は、吹付けコンクリートで覆われて見ることができない）には、明治31年8月東口、明治31年10月西口を起工し、明治32年9月導坑貫通、明治34年3月竣工となっている。一方、「大成建設土木史」には坑門工がまだ竣工していない段階での記念写真が「明治33年6月」と記載されているので、長さ608mの隧道工事は、実質2年足らずで完了したことになる。その工事の速さに改めて先人の湊川付替事業にかけける意気込みが感じられる。



平成19年度の活動記録

！平成19年7月15日(日)
 総会・講演会 10:00～12:00

場 所：新湊川河川防災ステーション内
 (新湊川ふれあい会館)
 内 容：講演者 森本政之氏(神戸大学大学院工学研究科長・教授)
 演 題「音を科学する—暮らしの中の騒音と音楽ホールの響き—」
 参加者：69名



総会



講演会

！平成19年7月21日(土)
 一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」
 参加者：36名

！平成19年8月18日(土)
 一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」
 参加者：14名

！平成19年10月20日(土)
 一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」
 参加者：36名

！平成19年9月15日(土)
 一般公開、ミニコンサート 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「尺八ミニコンサート」「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」
 参加者：70名

！平成19年11月17日(土)
 一般公開、ミニコンサート 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「テノール・フォルテピアノミニコンサート」、
 「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」
 参加者：127名



！平成19年12月15日(土)
 一般公開 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」
 参加者：33名



！平成20年3月15日(土)
 一般公開・神戸学院大学附属高校吹奏楽部ミニコンサート・
 兵庫区歴史花回道ウォーク 13:00～16:00

場 所：湊川隧道内
 内 容：「ミニコンサート」「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」

！平成20年3月23日(日)
 総会・講演会予定 10:00～12:00

場 所：新湊川河川防災ステーション内(新湊川ふれあい会館)
 内 容：講演者 吾妻義信氏(湊川隧道保存友の会 副会長)
 演 題「隧道保存友の会 地域の宝物」

平成20年度の行事予定

一般公開

- 場所** 湊川隧道内
- 内容** 「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等
- 主催** 湊川隧道保存友の会
- 日時**
- | | |
|-----------------|-------------|
| 平成20年 4月19日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年 5月17日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年 6月21日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年 7月19日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年 8月16日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年 9月20日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年10月18日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年11月15日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成20年12月20日 (土) | 13:00~16:00 |
| 平成21年 3月14日 (土) | 13:00~16:00 |

※9月20日(土)と11月15日(土)に開催します一般公開に合わせて、ミニコンサート等のイベントを企画中です。アイデア、ご意見等をお持ちの方は事務局までご連絡ください。

お知らせ

会費の納入及び新規会員募集について

- ・平成20年度会費の納入は、原則として4月末日までをお願いします。
- ・本会は、神戸を代表する近代土木遺産としての湊川隧道の保存を願う県民・市民で組織し、隧道の保存・公開等に関するボランティア活動や研修とその支援を行う事を目的として活動しています。お知り合いの方々に本会の主旨を説明していただき、会員を増やしていきましょう。

正会員 (年会費 1,500円)

賛助会員 (年会費 1,000円)

賛助法人会員 (年会費は一口10,000円を一口以上)

*正会員は年一回以上、隧道公開時にボランティア活動を行う。

事務局：神戸大学都市安全研究センター内 市成 準一
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
TEL 078(803)6064 FAX 078(803)6394